

学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.6 平成28年11月1日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。→ 新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

○ 10月7日(金) 15:10~17:10 会場:西高社会科教室

2学年医療専攻対象 医療講演会 テーマ:「難病について」

講師:小池亮子先生(西新潟中央病院神経内科 医師)・患者様からの講演

「NPO法人新潟難病支援ネットワーク」の6名の皆様の出張授業でした。

「医師1名・看護師2名・患者様および事務局2名」という構成で、同時に様々な立場の方のお話を聞く貴重な機会となりました。



講師の小池亮子先生



患者様からの講演風景



聴講・質疑応答風景

【プログラム】

15:10	開会	NPO法人の司会者からの挨拶・出前教室の趣旨説明
15:20	講演	「難病とその支援」
	講師	小池 亮子 先生(新潟県難病相談支援センター長) (西新潟中央病院 臨床研究部長 神経内科医師)
16:05	講演	「変化する症状と不安の中で」
	講師	全身性エリテマトーデス患者 様 (にいがた膠原病つどいの会 副会長)
16:35	質疑応答	・医療専攻生12名全員の感想発表
17:10	閉会	

生徒の感想

○難病について詳しく話を聞くのは、今回が初めてでした。私は、ドラマで観たことのある「ALS」についてしか知りませんでした。知っていると言っても大したことはなく、難病にもいろいろな種類があって、症状も進行の程度にも個人差があることを知りました。今回は、患者さんのお話を直に聞くことができ、病気がどれだけ大変なことで、苦しいことなのかを知りました。家族や友人や周囲のサポートといった支援を受けられるためには、多くの人の理解が大切だと、感じました。また、今までは、病気の方に病気のことを聞くことは失礼なことだと思い、避けてきましたが、その人の病気のことをゆっくりと聞いて理解することも大切なことなのだと分かりました。自分が医療関係者になったときには、病名だけで判断をせず、病状は人によって違うので、その時の症状を聞いて理解して、その人に合った対応を心掛けることが必要だと分かりました。

(2年女子生徒・助産師志望)

○10月11日(火) 15:55~17:25 会場:西高社会科教室
2学年医療職志望生徒対象 医療講演会(新潟大学出前講義)

講師:新潟大学 医学部保健学科 看護学専攻 准教授 小林公一 先生

演題:「放射線で診る骨の元気と病気」

今回は、医療専攻の生徒以外で看護医療職を目指す生徒との合同授業でした。

毎年、新潟大学の先生方が講義体験を西高で実施してくださっています。今回は、人文・法・経済・教育・理・工・農・医(保)学部から、8講座が開講されました。



講師の小林公一先生



質疑応答風景・・・美しい夕焼けの後、窓の外はすっかり暗くなってしまいましたが、90分以上、熱心に講義を受けました。

生徒の感想

○人間をつくる基本的なパーツの骨について学びました。骨は今まで「身体を形作るもの」ぐらいしか知識が無かったので、今回初めて「筋肉を支えるもの、内臓を支えるもの、血液をつくるもの」であること、さらに「骨が10年単位で生まれかわること」を知り、驚きました。「骨の強さとは」のところで、大腿骨の断面部分で10,048 kg(約10t)の重さを支えられることにも驚きました。また、「骨の強さはおおむね密度の二乗に比例する」という言葉と「骨粗鬆症」・「変形性膝関節症」について学びました。20歳から骨量が減っていき、避けることはできないそうですが「適度な運動、カルシウムを1,000 mg摂取すること」が有効だとお聞きして、実践しようと思いました。「骨」は、理学療法では重要な分野なので、また一層学びたいと思いました。

(2年女子生徒・理学療法士志望)